

福津市原崎市長と懇談！

～福津市自治体キャラバン再開～



9月26日に原崎智仁福津市長との懇談を実施しました。8月の福岡県後期高齢者広域連合議会に向けた懇談申し入れ時に約束していたものが実現した形です。2022年1月に続いて2回目となります。今回は、懇談日程が後期高齢者定例議会閉会後であったため、懇談資料として県社保協の「新型コロナウイルス感染症のもとで住民のいのちと暮らしを守るための社会保障制度の充実を求める要望書」(案)を送付したところ、当日は、原崎市長をはじめ、健康福祉部、子ども家庭部、市民生活部、総務部防災安全課から4名の管理職も同席して、意見交換ができました。地元福津市在住の、県社保協の松尾ひとみ事務局次長が、学校給食無償化・子供医療費の一医療機関ごとの限度額・高額な国民健康保険料、年金者組合福岡県本部の牧委員長が、高齢者世帯の困窮状態・公的な救済制度の周知の徹底などについて、率直に地域住民の声を代弁しました。県社保協甲斐事務局長からは、福岡県国民健康保険運営方針の保険料水準の統一化方針について反対の立場を示し、市としての考えを尋ねました。

原崎市長は、「学校給食、国保税、低年金者への施策など、市として考えていかななくてはならないこと」と述べました。ただ、福岡県国民健康保険運営方針については、国保担当者（子ども家庭部部長）の、「今後国保加入者が減少していく中で、1人当たりの医療費が増大し、自治体だけでは保険料の値上げがみこまれる。県で統一することで、加入者の保険料の値上げを防ぐことができる」という見解を示して、市としては、統一要望書案にある『福岡県国民健康保険運営方針の保険料水準の統一への反対』には、慎重な態度を示しました。又、歯科保険医協会事務局の七里氏は、原崎市長の市民公開講座参加への御礼と、公的歯科健診・歯科医療の重要性を訴えました。

一時間余りの懇談でしたが、終始穏やかに率直な意見交換ができました。終了時には原崎市長が、後日、要望書への正式な回答をすることを約束しました。